様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ００９２７

研究課題名（和文）日本墨書土器データベースの全国的達成

研究課題名（英文）Constructing the nation-wide database of ancient Japanese pottery with ink inscriptions

研究代表者
吉村　武彦（Yoshimura, Takehiko）

明治大学・文学部・名誉教授

研究者番号：５００１１３６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　19,900,000円

研究成果の概要（和文）：　研究の基礎となる墨書土器研究文献目録は2274点を数え、明治大学の日本古代学研究所のホームページで公開している。データベースは、青森・宮城・福島・福井・愛知（尾張・三河）・三重県は画像なしデータ、滋賀・京都（長岡・山城・丹波・丹後）・大阪（摂津・河内・和泉）・兵庫（但馬以外）・和歌山・島根・岡山・大分（補遺）は画像付データを公開した。各都府県を網羅したデータベースとして完成したので、墨書土器の全国的な比較研究が可能となった。
　なお、文部科学省から安全性の危惧を指摘されたサーバーは、科研費補助金を2020年度の前倒し申請で採択され、新サーバーに切り替えたので安全性は確保された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本州・四国・九州にわたる都府県の墨書土器（刻書土器を含む）のデータベースが完成したので、日本墨書土器の特徴を研究することが可能となった。
　墨書土器は地域的特徴があり、出土点数も地域によって異なっている。各地域の比較研究、平城宮・京をはじめとする古代宮都と各地の集落遺跡出土の墨書土器の比較研究などが可能となった。データベースは明治大学のホームページで公開しているので、世界各地からアクセスが可能で、誰でも研究できる。これが最大の学術的な研究意義であり、また社会的意義である。新サーバによるデータベースは検索のみならず、釈文等について問合せができる双方向をもたせている。

研究成果の概要（英文）：This research project of compiling electronic data compendium of pottery with ink inscription has made considerable contribution to the studies of ancient Japanese history because very few sources written on paper survive today. The newly added data in the past year consist of those with drawings from eight prefectures, including Shiga Prefecture, and those without drawings from six prefectures, including Aomori Prefecture. This completes the data base of the all 47 prefectures of Japan, which makes it possible for cross-regional comparison of all over Japan. Furthermore, the data compendium incorporates a bibliography of pottery with ink inscriptions, listing 2274 references. We have also switched a server to further enhance the security against virus and attacks from hackers.

研究分野：日本古代史

キーワード：墨書土器　刻書土器　データベース　出土文字史料　日本古代史　日本考古学　墨

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

文献・文字史料がきわめて少ない日本古代史の研究分野では、出土文字史料の木簡・墨書土器（含刻書土器）・漆紙文書・文字瓦などが重要な史・資料群である。木簡に関しては、奈良文化財研究所（奈文研）が木簡データベース「木簡庫」を公開しているが、墨書土器については本研究の開始時点では、本データベースが存在するに過ぎなかった。しかし、まだ全国的に網羅することができていなかった。

本研究では、「遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体」に関する詳細な全国的データベースを構築することを主目的として、その素材ともなる墨書土器研究文献目録とともに、明治大学・日本古代学研究所のホームページで公開してきた（http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/）。しかし、膨大な作業量が必要なため、全国にわたる詳細な墨書土器データベースの構築は、まだ形成途上であった。

データベースの公開は、すでに『史学雑誌』(史学会)や『日本歴史』（日本歴史学会）をはじめとする日本古代史学界で高く評価され、日本古代史研究に欠かせないデータベースとして存在感を高めてきており、全国的なデータベースの完成が求められていた。

２．研究の目的

日本古代史の領域では、研究史料となる文献史料がきわめて少ないため、考古学の発掘調査で出土する木簡･墨書土器（刻書土器を含む）・漆紙文書・文字瓦などの出土文字史料が重要な史・資料群である。５０万点に及ぶとされる木簡は、奈良文化財研究所により「木簡庫」という木簡データベースとしてネット上で公開されている。木簡につぐ数量をもつ墨書土器については、本研究が明治大学の日本古代学研究所のホームページで「全国墨書土器・刻書土器、文字瓦　横断検索データベースのオンライン版（試行版）」として公開し、日本古代史研究に寄与してきた。日本国内における画像情報付きの墨書土器データベースを完成・公開することは、古代史研究を発展させるために喫緊の研究である。しかも、全国版を試みる研究は本研究しかない。

毎年、出土数が増加している墨書土器データベースを拡充することも重要であり、文字史料の少ない古代史研究では必要不可欠である。一部の県・市においては、県・市史の編纂事業としてデータベースが作成されている。しかし、県・市史の刊行後は終了するのが現状である。研究を発展させるためには、データベースの構築を継続する必要がある。

日本の墨書土器研究を、韓国・中国から出土する墨書土器研究と比較し、東アジア的視点から進めていく必要がある。そのため、韓国・中国を含めた墨書土器を発展させていくことも、同じ漢字文化圏の研究として重要である。とりわけ韓国研究者との連携が重要である。日本の出土文字史料は、中国南朝と百済の影響が強いと思われるが、現地の研究者の協力を得て、共同研究として発展させていきたい。

３．研究の方法

歴史学や史料学においては、データベースの構築自体が重要な研究と評価できる。墨書土器（刻書土器を含む）に関係する発掘調査報告書・概報・地方史誌などの報告書資料・文献の調査を行ってデータを集成する。本大学博物館図書室における調査からはじめ、必要な報告書等の購入のほか、各地域の博物館・埋蔵文化財センターに出張して、各種文献の複写・収集を行う。各地域の研究協力者の支援をえて、各地の出土文字史料を収集し、日本全国の墨書土器研究文献目録の作成と全国版データベースを構築する。

データベースの構築は、各都府県単位（旧国制を配慮）に行うが、関係文献から墨書土器のデータを集成する。墨書土器は、主に発掘調査によって出土する。そのため、各地域において墨書土器等の文字史料に関心がある研究者・発掘担当者らと連携し、墨書土器関係の遺跡とその文献調査を徹底する必要がある。

墨書土器に関する情報データ（釈読文・実測図、遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体）を収集する。作業としては、各地の墨書土器関係の情報（発掘調査報告書・概報・地方史誌等）を調査して表形式のデータを作成し、電子媒体化する。そして「全国墨書土器・刻書土器、文字瓦 横断検索データベース」として、ホームページで公開する。

墨書土器の歴史的意義を解明するため、出土文字史料が豊富な下総国府・国分寺地域（千葉県市川市）を対象に、地域研究を実施する。さらに、日本墨書土器の特徴を明確にするために、韓国・中国出土の墨書土器と比較研究を行う。

４．研究成果

研究の基礎となる墨書土器に関する研究文献は、考古学・古代史関係の学術誌、明治大学の図書館・大学博物館図書室などにおいて研究文献・発掘調査報告書等を調査して作成している。現在 2274 点を公開している。研究文献リスト（墨書土器研究文献目録）は引き続き、明治大学日本古代学研究所のホームページで更新していきたい。研究の基礎となり、また全国の

墨書土器調査・研究者のデータとして共有したいので、最新情報を集成して発信したい。
　墨書土器データベースは、画像なしデータとして青森・宮城・福島・福井・愛知（尾張・三河）・三重県を公開し、画像付データとして滋賀・京都（長岡・山城・丹波・丹後）・大阪（摂津・河内・和泉）・兵庫（但馬以外）・和歌山・島根・岡山・大分（補遺）を公開することができた。このように各都府県を網羅した墨書土器データベースが完成したので、本州・四国・九州にわたる都府県の墨書土器（刻書土器を含む）のデータベースとして、日本墨書土器の特徴を、全国的に比較研究することが可能となった。
　墨書土器は、地域によって地域的特徴があり、出土点数も異なっている。各地域の比較研究ばかりか、平城宮・京、長岡宮・京という古代宮都と各地の集落遺跡出土の墨書土器との比較研究が可能となった。これらの研究は個々に行われてきたが、大規模なデータの比較研究として可能となった。データベースは明治大学における日本古代学研究所のホームページで公開しているので、日本国内に限らず、世界各地からもアクセスが可能であり、現実にも世界各地からアクセスされている。このように誰でもどこでも調査・研究できるのが最大の研究成果である。
　なお、文部科学省から安全性の危惧を指摘された旧サーバは、科研費補助金を 2020 年度の前倒し申請で採択されたので、新サーバに切り替えることができた。こうしたセキュリティの面でも安全性は確保された。しかも、新サーバによるデータベースは、検索システムだけではなく、釈文等についてアクセス者から問合せができる双方向をもたせたので、さらなるデータベースの拡充が可能となる。
　国際学術研究会としては、2020 年 1 月 12 日開催の「交響する古代」X（明治大学グローバル・ホール）において、
　＊吉村武彦「墨書土器と木簡ー歌詞を通じてー」
　＊久家隆芳「古代土佐の墨書土器とその主要遺跡」
　＊金 在 弘「韓国出土の古代墨書土器」
　＊山路直充「古代の人面墨書土器」
の報告を行い、予稿集を刊行した。
　また、『古代学研究所紀要』29（2020 年 3 月 31 日発行）には、
　＊吉村武彦・加藤友康・矢越葉子「『全国墨書土器・刻書土器 文字瓦 横断検索データベース』利用状況アンケートと集計結果」
　＊吉村武彦「墨書土器研究に関する文献目録稿　2019 年度版」
　＊犬飼　隆「土器に和歌を書き刻むことー交際において内意を伝える作法―」
を掲載し、研究成果の一部をまとめることができた。
　なお、地域研究としては千葉県市川市と連携しているが、『市川市史』第３巻（2019 年 1 月 31 日刊行）において、墨書土器の研究を含めて叙述することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計33件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 吉村武彦	４．巻 75
２．論文標題 「帝紀」・「旧辞」論の再構築と東国論	５．発行年 2019年
３．雑誌名 千葉史学	６．最初と最後の頁 63-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉村武彦	４．巻 1
２．論文標題 歌木簡と旧辞論の再構築に向けて（覚書）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『難波宮と古代都城』同成社	６．最初と最後の頁 465－474
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉村武彦	４．巻 2
２．論文標題 律令制国家の辺要政策	５．発行年 2020年
３．雑誌名 九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集	６．最初と最後の頁 151－158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉村武彦	４．巻 139
２．論文標題 三輪山・ヤマト王権と東国	５．発行年 2020年
３．雑誌名 大美和	６．最初と最後の頁 17－36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉村武彦	4．巻 29
2．論文標題 墨書土器研究に関する文献目録稿　2019年度版	5．発行年 2020年
3．雑誌名 古代学研究所紀要	6．最初と最後の頁 13-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村友一	4．巻 11
2．論文標題 古代人の「名」観念―『万葉集』の「あざな」を中心に―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本古代学	6．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉村武彦	4．巻 227
2．論文標題 出土木簡の「歌詞」と『日本書紀』歌謡	5．発行年 2019年
3．雑誌名 萬葉	6．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉村武彦	4．巻 2018
2．論文標題 列島古代史における鞠智城	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『鞠智城・古代山城シンポジウム』熊本県教育委員会	6．最初と最後の頁 221-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村友一	4．巻 11
2．論文標題 古代人の「名」観念―『万葉集』の「あざな」を中心に―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本古代学	6．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市　大樹	4．巻 1
2．論文標題 門の呼称からみた日本古代王宮の特質と展開	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『日本古代の政治と制度』同成社	6．最初と最後の頁 72－93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市　大樹	4．巻 1
2．論文標題 衛禁律からみた日唐王宮の空間構成	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『古代史論聚』岩田書院	6．最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市　大樹	4．巻 1
2．論文標題 難波長柄豊碕宮の革新性	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『難波宮と古代都城』同成社	6．最初と最後の頁 69-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴田博子	４．巻 29-1
２．論文標題 ８・９世紀の日向	５．発行年 2018年
３．雑誌名 宮崎産業経営大学研究紀要	６．最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 市　大樹	４．巻 56
２．論文標題 天平期節度使体制下の文書送達―出雲国計会帳にみえる節度使関係文書の 検討―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 島根史学会会報	６．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 市　大樹	４．巻 821
２．論文標題 公民制の成立と大化改新	５．発行年 2018年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 市　大樹	４．巻 270
２．論文標題 古代における東高野街道とその周辺	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ヒストリア	６．最初と最後の頁 42-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市　大樹	4．巻 70-2
2．論文標題 木簡の視覚機能という考え方	5．発行年 2018年
3．雑誌名 古代文化	6．最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉村武彦	4．巻 1
2．論文標題 王権と交通	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『日本古代の道路と景観』（八木書店）	6．最初と最後の頁 514-519
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉村武彦	4．巻 1
2．論文標題 田中良之の家族論・親族論と古代史学	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『骨からみた古代日本の親族・儀礼・社会』（すいれん舎）	6．最初と最後の頁 493-509
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤友康	4．巻 1
2．論文標題 僦馬の党	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『日本古代の輸送と道路』（八木書店）	6．最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤友康	4．巻 1
2．論文標題 古代法と「国例」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『概説日本法制史』（弘文堂）	6．最初と最後の頁 111－114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村友一	4．巻 27
2．論文標題 忌部首子首と天武・持統代の出雲	5．発行年 2017年
3．雑誌名 出雲古代史研究	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村友一	4．巻 809
2．論文標題 国家成立期の氏族・部と系譜	5．発行年 2017年
3．雑誌名 歴史評論	6．最初と最後の頁 61－70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川尻秋生	4．巻 93
2．論文標題 古代東国の在地社会と仏教－村落寺院・開発・双堂－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 民衆史研究	6．最初と最後の頁 31-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川尻秋生	4．巻 1
2．論文標題 使者と文書	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『日本古代史の方法と意義』（勉誠出版）	6．最初と最後の頁 111-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川尻秋生	4．巻 667
2．論文標題 九世紀における唐制受容の一様相－中世文書様式成立の史的前提－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴田博子	4．巻 1
2．論文標題 九州南部の出土文字資料	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『一般社団法人日本考古学協会2017年度宮崎大会研究発表資料集』	6．最初と最後の頁 255-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴田博子	4．巻 74
2．論文標題 文献史料からみた日向国府	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第74集　日向国府跡』	6．最初と最後の頁 126-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴田博子	4．巻 28-2
2．論文標題 宮崎県大島畠田遺跡をめぐる一考察	5．発行年 2018年
3．雑誌名 宮崎産業経営大学研究紀要	6．最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市 大樹	4．巻 964
2．論文標題 日本古代木簡の資料的特質	5．発行年 2017年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市 大樹	4．巻 95
2．論文標題 『万葉集』からみた古代交通制度の運用実態	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美夫君志	6．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒木志伸	4．巻 30
2．論文標題 東北地方の国庁・城柵政庁の建物配置	5．発行年 2021年
3．雑誌名 古代学研究所紀要	6．最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市 大樹	4．巻 3
2．論文標題 古代淀川流域の動向	5．発行年 2018年
3．雑誌名 新修摂津市史　史料と研究	6．最初と最後の頁 247-271
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計30件（うち招待講演　15件／うち国際学会　11件）

1．発表者名 吉村武彦
2．発表標題 「帝紀・旧辞」の再構築と東国論
3．学会等名 千葉歴史学会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 吉村武彦
2．発表標題 蘇我氏からみた大化の改新
3．学会等名 明日香村まるごと博物館フォーラム「飛鳥学講演会」（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 吉村武彦
2．発表標題 三輪山・ヤマト王権と東国
3．学会等名 三輪山セミナー イン 東京（大神神社）（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 加藤友康
２．発表標題 文化資源の研究資源化と統合型検索システムの開発
３．学会等名 国際学術研究会「交響する古代IX」（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中村友一
２．発表標題 古代日・中の姓名表記とその意義
３．学会等名 中国社会科学院・明治大学学術交流会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中村友一
２．発表標題 日本古代史学における系図史料の意義
３．学会等名 日本家系図学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 飛鳥の時代と蘇我氏
３．学会等名 明日香村まるごと博物館フォーラム「飛鳥学講演会」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 大化改新と難波遷都
３．学会等名 公開シンポジウム「今、難波宮から都城を考える」
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 出土木簡の「歌詞」と『日本書紀』歌謡
３．学会等名 第71回萬葉学会全国大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 聖徳太子の時代と文化
３．学会等名 奈良県主催聖徳太子シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 歌木簡と旧辞論の再構築
３．学会等名 国際学術研究会「交響する古代IX」（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 飛鳥寺・斑鳩寺建立とその時代
３．学会等名 世界遺産の登録をめざす東京講演会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中村友一
２．発表標題 日本古代における周縁地域への軍事対応の変容について―対蝦夷を中心に―
３．学会等名 駿台史学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 市　大樹
２．発表標題 古代における東高野街道とその周辺
３．学会等名 大阪歴史学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 市　大樹
２．発表標題 日本の７世紀木簡からみた韓国木簡
３．学会等名 韓国木簡学会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 荒木志伸
２．発表標題 政庁機能の再検討－古代城柵官衙遺跡を中心に－
３．学会等名 国際学術研究会「交響する古代IX」（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 日本歴史学における時代区分の問題
３．学会等名 European Association for Japanese Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 井上光貞の令集解研究
３．学会等名 井上光貞生誕100周年記念シンポジウム「日本の律令と令集解研究」
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 倭国の政治的・文化的発展と百済・高句麗
３．学会等名 明治大学・高麗大学校学術交流研究会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉村武彦
２．発表標題 大化改新と社会生活の改革－「愚俗の改廃」－
３．学会等名 明治大学・中国　　社会科学院学術交流研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤友康
２．発表標題 （コメント）平安時代とは
３．学会等名 European Association for Japanese Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤友康
２．発表標題 東アジアのなかの平安文化
３．学会等名 南京大学歴史学院“考古名家講壇”第11期（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤友康
２．発表標題 国府のなかの国司館ー国庁と国司の館ー
３．学会等名 シンポジウム　都市「防府」の形成と周防国府の謎（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 加藤友康
２．発表標題 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（新大型研究）による統合型検索システムの開発・と文化資源化
３．学会等名 明治大学古代学研究所・明治大学大学院文学研究科主催〈交響する古代Ⅷ〉（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 中村友一
２．発表標題 日本古代の「連公」考
３．学会等名 明治大学・高麗大学校国際学術会議『韓日の文学・史学研究の現在』（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 川尻秋生
２．発表標題 九世紀における唐制受容の一様相－中世文書様式成立の史的前提－
３．学会等名 2017年日本史研究会大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 柴田博子
２．発表標題 九州南部の出土文字資料
３．学会等名 日本考古学協会2017年度宮崎大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 市大樹
２．発表標題 『万葉集』からみた古代交通制度の運用実態
３．学会等名 美夫君志会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 市大樹
２．発表標題 出雲国計会帳の魅力－節度使関係文書を中心に－
３．学会等名 島根史学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 荒木志伸
２．発表標題 古代出羽国と鳥海山－遺跡から見た災害の様相－
３．学会等名 平成29年度ジオガイド養成講座（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計21件

１．著者名 吉村武彦	４．発行年 2019年
２．出版社 KADOKAWA	５．総ページ数 306
３．書名 『新版　古代天皇の誕生』	

１．著者名 吉村武彦（編著）	４．発行年 2019年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 317（1-20、175-230 執筆）
３．書名 『シリーズ古代史をひらく　前方後円墳』	

１．著者名 吉村武彦（編著）	４．発行年 2020年
２．出版社 KADOKAWA	５．総ページ数 407
３．書名 『新版　古代史の基礎知識』	

１．著者名 吉村武彦（編著）	４．発行年 2020年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 333（1-20、21-80 執筆）
３．書名 『シリーズ古代史をひらく　渡来系移住民』	

１．著者名 吉村武彦	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 244
３．書名 『大化改新を考える』	

1．著者名 吉村武彦（共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 市川市	5．総ページ数 451
3．書名 『市川市史 歴史編Ⅲ』（pp2-16，52-64）	

1．著者名 吉村武彦（共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 八木書店	5．総ページ数 354
3．書名 『明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本』	

1．著者名 加藤友康（共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 八木書店	5．総ページ数 354
3．書名 『明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本』	

1．著者名 加藤友康（共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 市川市	5．総ページ数 451
3．書名 『市川市史 歴史編Ⅲ』（pp76-105）	

１．著者名 篠川賢編（共著）中村友一	４．発行年 2019年
２．出版社 雄山閣	５．総ページ数 363
３．書名 『日本古代の氏と系譜』（pp125-140）	

１．著者名 遠藤慶太他編（共著）市　大樹	４．発行年 2018年
２．出版社 八木書店	５．総ページ数 522
３．書名 『日本書紀の誕生―編纂と 受容―』（pp273-297）	

１．著者名 古瀬奈津子編（共著）市　大樹	４．発行年 2018年
２．出版社 竹林舎	５．総ページ数 518
３．書名 『律令国家の理想 と現実』（pp342-379）	

１．著者名 角谷常子編（共著）市　大樹	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 292
３．書名 『古代東アジアの文字文化と社会』（pp8-42）	

１．著者名 川尻秋生（編著）	４．発行年 2019年
２．出版社 竹林舎	５．総ページ数 532
３．書名 古代の都城と交通	

１．著者名 吉村武彦編（共著）川尻秋生	４．発行年 2020年
２．出版社 KADOKAWA	５．総ページ数 407
３．書名 『新版　古代史の基礎知識』	

１．著者名 川尻秋生（編著）	４．発行年 2020年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 285
３．書名 『シリーズ古代史をひらく　文字とことば』	

１．著者名 川尻秋生（共著）	４．発行年 2019年
２．出版社 市川市	５．総ページ数 451
３．書名 『市川市史 歴史編Ⅲ』（pp208-229）	

１．著者名 篠川賢・大川原竜一・鈴木正信（共著）中村友一	４．発行年 2017年
２．出版社 八木書店	５．総ページ数 706
３．書名 『国造制・部民制の研究』　（pp89-109）	

１．著者名 加藤謙吉（共著）中村友一	４．発行年 2018年
２．出版社 雄山閣	５．総ページ数 230
３．書名 『日本古代の氏族と政治・宗教　上』（pp163-180）	

１．著者名 鈴木靖民・荒木敏夫・川尻秋生（共著）市大樹	４．発行年 2017年
２．出版社 八木書店	５．総ページ数 536
３．書名 『日本古代の道路と景観―駅家・官衙・寺―』（pp131-148）	

１．著者名 鈴木靖民・田中史生・李成市（共著）市大樹	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 573
３．書名 『日本古代交流史入門』（pp490-500）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

墨書土器データベース
http://www.isc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html
墨書・刻書土器
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html
i日本古代学研究所
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	加藤　友康 (Kato Tomoyasu) (00114439)	明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員 (32682)	
研究分担者	中村　友一 (NAkamura Tomokazu) (00553356)	明治大学・文学部・専任准教授 (32682)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	川尻　秋生 (Kawajiri Akio) (70250173)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
連携研究者	柴田　博子 (Shibata Hiroko) (20216013)	宮崎産業経営大学・法学部・教授 (37602)	
連携研究者	市　大樹 (Ichi Hiroki) (00343004)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	荒木　志伸 (Araki Shinobu) (10326754)	山形大学・基盤教育院・准教授 (11501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
交響する古代　X　（アジア古代の諸相）	2020年～2020年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関